

# やまぐちっ子学力向上だより

第 146 号 R6.4.11

山口県教育庁義務教育課

## 誤答に着目した課題把握と解決に向けた組織的な手立ての確立を

各学校においては、全国学力・学習状況調査や4月確認問題の自校採点を行い、これまでの教育活動の成果と課題の把握を進めていかれることと思います。課題を把握し、今後の取組を考えていく際に大切にしていきたいことが、「子どもの誤答に着目する」ということです。正解・不正解だけでなく、次のような視点から、子ども一人ひとりの解答の状況を丁寧に見取り、よりよい指導の仕方を明らかにしていきましょう。

### 1 子どもの誤答を丁寧に見ていきましょう

例えば、昨年度の県学力定着状況確認問題では、次のように、同じ問題でも学校によって誤答の状況が異なっていました。

「二つのメモから言葉や文を取り上げることに課題をもっている

#### 問題

焼きぬきかまぼこのひみつについて、  
〈条件〉に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ①【インタビューのメモ】の〈おいしくつくるためのくふう〉〈えい生面のくふう〉の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ②聞いたことを相手に伝える表現で書くこと。

	A学校	B学校	C学校
条件① 書けている	12人	32人	19人
条件① 書けていない	17人	5人	3人
条件② 書けている	3人	12人	5人
条件② 書けていない	26人	25人	17人

子どもが多くいるA学校」と「聞いたことを相手に伝える表現ができれば正答になる子どもが多くいるB学校やC学校」とでは、課題解決のための手立てが違ってくるはずですが、誤答の状況に着目することで、子どもの実態に応じたより効果的な手立てが明らかになります。子どもが、「どのように間違えているのか」を丁寧に見ていきましょう。

### 2 「授業における支援」と「個別の支援」を考えましょう

選択式の問題に対して、次のような解答状況が見られました。

#### 問題

「これからもわたしたちは、花いっぱい公園になるように、世話を続けていきます。」の主語はどの言葉ですか。

(正答) わたしたちは… 27.4%

(誤答) これからも … 30.2

(誤答) 世話を … 38.7

(誤答) 公園に … 3.3

無答 … 0.4

**A** 「授業における支援」

**B** 「個別の支援」

例えば、**A**のように、述語の「続けていきます」に係る言葉を選んでいる多くの子どもに対しては、「授業における支援」で課題解決を図っていくということが考えられます。一方で、**B**のように、言葉と言葉との関係に見当がついていない特定の子どもに対しては、補充学習等での「個別の支援」が必要になるでしょう。このように、誤答の状況を踏まえて、「授業における支援」と「個別の支援」を考えていきましょう。

### 3 全ての教科、全ての教職員で支援をしていきましょう

例えば、国語科の調査で次のような課題が見られた場合、他の教科ではどのようなことに取り組むことができるでしょうか。

課題

複数の資料を関連付けて分かることを、文章でまとめる。



理科では、複数の実験結果から分かることをまとめることがあります。そのとき、何を目的にした実験なのかを明確にさせておくことで、関連付けが容易になるようにしたいと思います。



社会科では、複数の資料を関連付けて分かることをまとめることがあります。そのとき、資料の概要を表す短い言葉でのタイトルを付けさせることで、資料同士の関連が見えてくるようにしたいと思います。

このように、調査に関わる教科だけでなく、全ての教科において、全ての教職員がそれぞれ工夫した教育活動を仕組むことで、全校体制での課題解決が進んでいきます。また、家庭や地域と課題を共有し、連携・協働した取組をすることも欠かせません。カリキュラム・マネジメントを意識し、調査対象の教科のみにとどまらない改善策を講じていきましょう。

### 4 取組の成果と課題を「いつ」「どのような方法」で見取っていくのかも計画しましょう

子どもたちの課題解決に向けた取組を、「やったつもり」で終わらせないために、PDCAサイクルを意識しておくことが大切です。特に、取組の成果と課題を「いつ」「どのような方法」で見取っていくのかも計画しておきましょう。方法としては、次の教科調査や質問調査、定期考査や学校評価アンケート等が考えられます。

また、取組の成果を子どもと共有することで、子どもの学びに対する意欲の向上につなげていきましょう。

子どもたちの「誤答」は、学力向上のよりどころであり、その中には、課題解決のヒントがつまっています。ぜひ効果的な活用をお願いします。

